

〔論 文〕

トルコにおける市場空間の構成と活用に関する考察

鶴田佳子・高木亜紀子

A Study on Configuration and Utilization of Commercial Area in Turkey

Yoshiko TSURUTA and Akiko TAKAGI

The purpose of this study is to understand the spatial characteristics of Turkish cities. On the basis of spatial examination of urban centers in 14 cities in 2008, we drew the plans of the central commercial areas (*Çarşı* in Turkish) of 11 cities (Göynük, Taraklı, Mudurnu, Bolu, Safranbolu, Kastamonu, Nallıhan, Beypazarı, Konya, Afyon, Kütahya). The following conclusions can be drawn from our analytical observation. The spatial configuration of *Çarşı* depends upon the size of the city. The *Çarşı* plan of the 7 cities employs a grid-like configuration. Historical buildings in the *Çarşı* such as *Han* (i. e. lodging houses and offices for caravans) are restored, kept, and utilized as commercial buildings, hotels, cafés, galleries, workshops, etc. There are many shops and workshops producing and selling shoes and clothing. As a traditional space, *Çarşı* are also important for sightseeing.

Key words: Turkey (トルコ), commercial area (商業空間), space configuration (空間構成), utilization of space (空間活用)

1. はじめに

トルコの都市の中心部には通常、店舗の連なる市場空間が広がっている。市場空間はトルコ語でチャルシュと呼ばれる商店街とパザルと呼ばれる露天市の2つの空間形態がある。パザルは都市によっては同一都市内で複数存在し、中心部に立地しないものもあるが、比較的規模の小さな都市ではチャルシュに隣接する広場等で開催され、チャルシュとともに市場空間を構成する。また、市場空間は店舗の他、行政施設やモスク、ハمامなど公共性の高い施設が立地しており、多機能を有する空間となっている。都市の規模や歴史、地理的な条件等が反映しているものと考えられ、トルコ諸都市の特質をみる上で欠かせない都市空間と捉えている。

本研究は、調査事例に基づいて市場空間の形態及び活用状況を分析し、空間の特性及び地域性を抽出

するものである。第1段階として2007年8月と2008年3月の2回にわたり、かつての交易路上の都市を対象として調査を実施し、市場空間に含まれる構成要素及び都市における位置づけについて整理、分析を行った¹。第1回、第2回の調査では、アナトリア北西部の旧交易都市8事例を対象とし、共通点を3点見出した。まず1点目は、都市の中心に市場空間が位置しているという現状を確認できたことである。2点目は機能面をみると、商業機能だけでなく、交流、情報交換の場として、多くの人が集まり、町のシンボリック役割を担っており、市場空間が周辺の村も含めた交流空間の拠点となっている点である。3点目としては、伝統的な市場空間の中、あるいは隣接する形で新しい都市施設ができ、新旧の構成要素が都市中心部に混在しながら、発展してきている点である。これら3点は市場空間の都市における位置づけであり、市場空間自体の特質について

は更なる調査、分析が必要である。そのため第3回トルコ都市・市場空間調査では同8事例を対象として、常設の市場空間であるチャルシュの内部構成に焦点をあて、施設の配置及び空間の活用状況を記録、分析し、内部構成と活用状況の2つの切り口から空間の特質を考察する。また、旧交易都市はトルコ国内に分布しているため、調査対象エリアをアナトリア西部に広げ、都市規模の異なる事例も加える²。各都市において仮設の露天市についても調査を継続して行っているが、分析については別途、報告予定であり、本稿では扱わないものとする。

2. 研究手法

トルコにおける全体像を把握するために、地域及び規模の異なる都市を選定し、各都市では対象となる市場空間を定め、現地調査を実施する。多様な事例データの収集に努め、調査データに基づいて空間形態の分析を行う。研究対象とする地域の選定は治安面や気候面での調査条件も考慮し、都市については文献資料及び既往の調査³から得られた都市の規模や歴史、地図情報等をもとに選定する。各都市における調査対象エリアは地図、文献情報から予測し、現地で状況を確認後、決定する。1回の調査期間が限られるため、各回、調査対象地域を限定し、その中から都市の選定を行う。数年かけて現地調査を重ね、トルコ全体像の把握へとデータを蓄積する予定である。

現地調査では、対象エリアの空間形態について図面及び写真による記録、同時に文献資料及びヒアリングによる情報収集を行う。ヒアリングは行政機関、商店主、工房の職人、露天商、住民、現地研究者等に行い、多様な角度からの情報を収集する。対象エリアの空間形態は建築からみるハード面の形態だけでなく、市場空間での人々の活動状況等ソフト面での空間の様相も併せて記録し、分析対象として捉える。調査機材はデジタルカメラ、距離測定機器、コンベックス、角度測定器、方位計等である。調査後は収集データを作図、デジタル化し、分析の基礎データとする。空間構成をみるために事例毎に構成内容を確認し、空間配列や利用状況等をもとに分析を

進める。

3. 調査概要

1) 調査期間

2008年8月8日から9月6日の30日間

2) 調査メンバー

鶴田 佳子（昭和女子大学現代教養学科准教授）
高木 亜紀子（昭和女子大学生生活環境学科助手）
車田 まどか（昭和女子大学現代教養学科3年）
戸堀 美里（昭和女子大学現代教養学科3年）
衛藤 禎史（イノウエインダストリイズ）

3) 調査行程及び調査地位置図

(()) 内は経由地を示す。図1参照)

1. 8月 8日（金）東京→(ソウル)→イスタンブル
2. 8月 9日（土）イスタンブル
3. 8月10日（日）イスタンブル
4. 8月11日（月）イスタンブル
5. 8月12日（火）イスタンブル
6. 8月13日（水）イスタンブル→ギョイヌック
7. 8月14日（木）ギョイヌック→タラクル→ギョイヌック
8. 8月15日（金）ギョイヌック→ムドゥルヌ
9. 8月16日（土）ムドゥルヌ→ナルハン
10. 8月17日（日）ナルハン→ベイパザル
11. 8月18日（月）ベイパザル→(アンカラ)→イスタンブル
12. 8月19日（火）イスタンブル
13. 8月20日（水）イスタンブル→ボル
14. 8月21日（木）ボル→サフランボル
15. 8月22日（金）サフランボル→カスタモヌ
16. 8月23日（土）カスタモヌ
17. 8月24日（日）カスタモヌ→アンカラ
18. 8月25日（月）アンカラ→コンヤ
19. 8月26日（火）コンヤ
20. 8月27日（水）コンヤ→アフヨン⁴
21. 8月28日（木）アフヨン→キュタフヤ
22. 8月29日（金）キュタフヤ→ブルサ
23. 8月30日（土）ブルサ
24. 8月31日（日）ブルサ→イスタンブル
25. 9月 1日（月）イスタンブル
26. 9月 2日（火）イスタンブル
27. 9月 3日（水）イスタンブル
28. 9月 4日（木）イスタンブル
29. 9月 5日（金）イスタンブル→
30. 9月 6日（土）→(ソウル)→東京

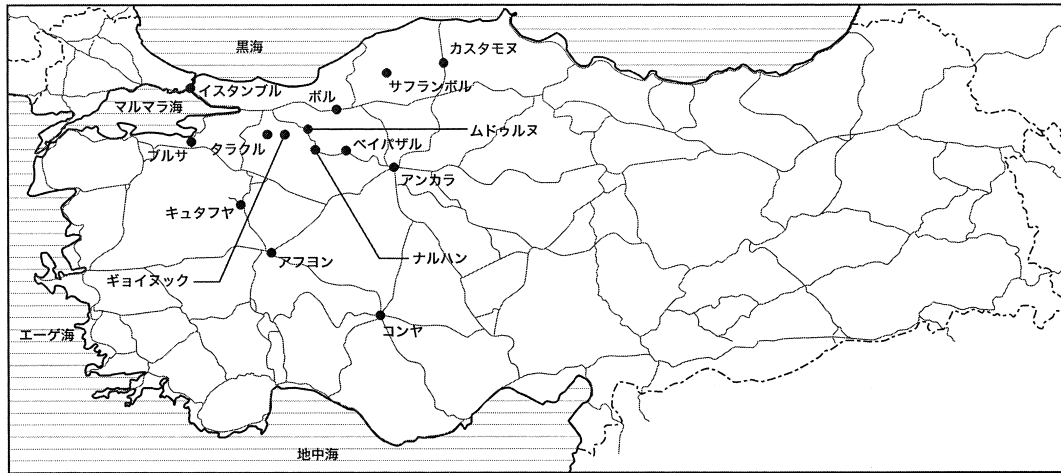


図 1. 調査位置図

4) 調査関連用語

トルコではトルコ語を使用しており、本研究に関連する主要な用語を文中では便宜上トルコ語のカタカナ表記とする。また、都市名、施設名称についてもカタカナ表記とする。下記にトルコ語、カタカナ表記、意味の順で示す。

- arasta アラスト 通路型のバザール
- bedesten ベデステン 高価な商品を扱う堅固な市場施設
- cami ジャミィ モスク
- çarşı チャルシュ 商店街、市場
- çayhane チャイハネ 喫茶店
- hamam ハマム 公衆浴場
- han ハン 隊商宿、商館
- kale カレ 城砦
- kervansaray キャラバンサライ 隊商宿
- külliye キュリエー モスクを中心とした複合都市施設
- medrese メドレッセ 神学校
- pazar パザル 露天市、市場
- türbe トゥルベ 墓廟

4. 市場空間の内部構成

市場空間の内部構成について、本稿では常設のチャルシュに対象範囲を絞る。チャルシュは商業活動を主として多くの人が利用する空間を指し、商業以外の機能も併せもつ複合的な場となっている。具体

的には、常設の伝統的な商業施設単体、もしくはその複合体、及び通りに連続して並ぶ店舗群から構成され、その領域は都市によっては曖昧なものもあるが、一つのまとまった空間として捉えることができる。伝統的な商業施設として屋根で覆われた堅固な施設には、ベデステン、ハン、アラスタと呼ばれる3施設⁵があり、これらの多くはオスマン時代に建設され、チャルシュの核的な役割を担ってきた。また、街路に並ぶ店舗群は木造1、2階建てのものが多く、1階は店舗または工房として使用され、2階がある場合は倉庫になっているものがほとんどである。隣接する店舗と壁を共有している長屋形式のものもあり、いずれも間口の狭い空間になっている。商業以外の機能を有するものとしては、ジャミィやハマム、行政施設があり、複合的な機能を兼ね備え、チャルシュが都市センターの役割を担っていることが確認できる。第3回調査では、チャルシュの現状を把握するために施設の活用状況を記録した。まず、チャルシュの全体像について、施設の活用状況を分類したチャルシュ平面図を通して、都市毎の特徴をみる。

1) 都市別平面形態と構成

第3回調査で対象とした14都市のうち、イスタンブル、アンカラ、ブルサを除く11都市⁶についてチャルシュ内の施設の活用状況を現地調査に基づき、チャルシュ平面図としてまとめた⁷。

チャルシュ内の業種をみると、全都市を通して布

製品、革製品、貴金属の店が多くみられた。布製品は衣料品をはじめとして、スカーフやテーブルクロス、カーテン、シーツ、布団など、生活の必需品であると同時に、織物や刺繍などの伝統工芸の要素も加わっている。また、仕立てや仕立て直しといった工房も同じエリア内に存在する。革製品は主に靴で、その他には鞆やベルトがある。布製品同様、仕立てや修理の工房も同じエリア内に存在する。貴金属は主に金であり、現在も重要な財産として金を購入する人が多く、特にベデステンを有する都市では、ベデステン内に貴金属の店が集まっている。いずれも伝統的な商品であり、大都市になるほど業種毎にまとまったエリアを形成し、チャルシュの大部分を占めている。このため布製品、革製品、貴金属製品には特に着目し、さらに点在する施設としてコミュニティ関連施設、公共施設、宗教関連施設をチャルシュ平面図内に記載する。

点在する施設は、いずれも住民やチャルシュで働く人々にとって欠かすことのできない施設であるため、コミュニティの中心ともなっている。具体的には、コミュニティ関連施設はチャイハネ、食堂、床屋、ハمام、公共施設は行政施設、学校、図書館、郵便局、宗教関連施設はジャミィやトゥルベである。また、チャルシュ内には倉庫や空き店舗も点在しているため、現状として記載する。ベデステン、アラスタ、ハンの歴史的な3施設はその中に複数の店舗が含まれており、建造物としての輪郭線を太線で示すこととする。自然環境として、起伏に富んだ地形は図中に表現していないが、川はチャルシュに隣接するものがあるため、陸地の道路との違いを出すために色をつけた。以上のことから、チャルシュ平面図内の凡例を作成した（図2参照）。

以下、都市毎に都市の概要とチャルシュの構成を示し、特質を考察する。

①ギョイヌック Göynük 人口4,984人⁸

黒海地方西部のボル県ギョイヌック郡の中心に位置する小規模な都市である。町のランドマークである「勝利の塔」が建つ高台を挟んでV字に2つの川が流れ、川沿い及び谷間の斜面に市街地が形成さ

れている。川沿いに2つの広場があり、月曜には周辺の村々からも多くの人が訪れる露天市が開催される。月曜市では野菜市場となる西側の広場に市役所が面し、日用雑貨の市場となる東側の広場にはガジ・スレイマン・パシャ・ハمامが面する。ハمامと川を挟んで、ガジ・スレイマン・パシャ・ジャミィとアクシャムセッディン・トゥルベが並ぶ。ハمامとジャミィはキュリエュとして1335年に建造されたもので、それぞれ修復の手が加わっている。特にジャミィは1999年に火災にあい、屋根と内部の木造部分が焼け、2000年にオリジナルに近いデザインで再生されたものである。チャルシュは、2つの広場よりも高い、尾根沿いに位置し、かつての交易ルート沿いに店舗が並ぶ形式となっている。全体の店舗数は少ないチャルシュであるが、割合としてチャイハネと雑貨屋が多く、他に床屋、仕立屋、ガラス屋、写真屋、貴金属店、建材屋、パン屋など日常生活に必要なものは一通り揃っている。伝統的な木造住宅が多く残っているため、住宅群を街並みとして保存することに力を入れている。

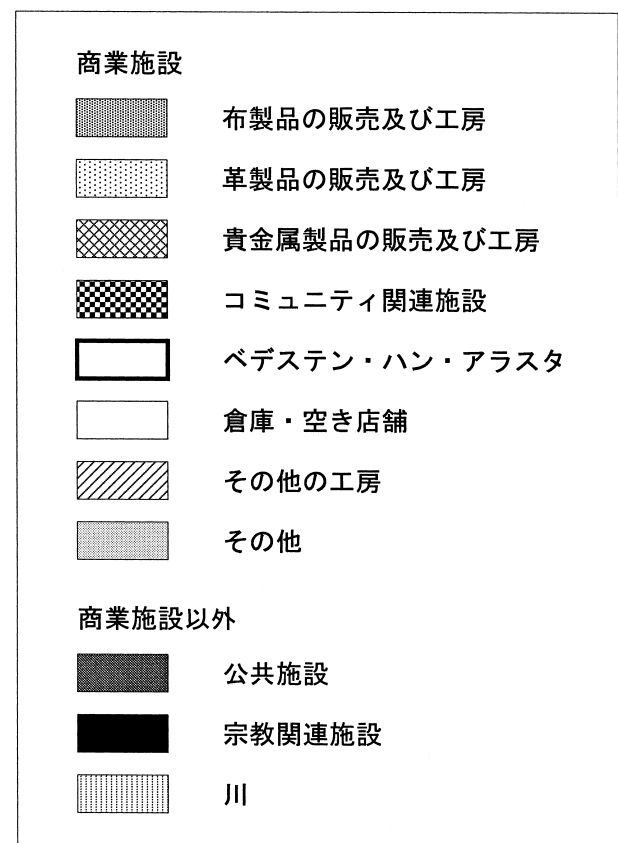


図2. チャルシュ平面図凡例

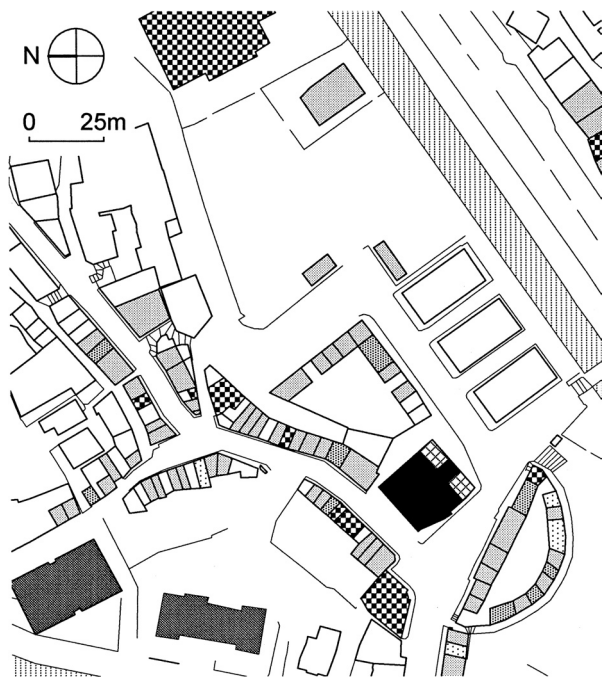


図3. ギョイヌック チャルシュ平面図

②タラクル Taraklı 人口4,146人

ビザンツ時代は小さな城塞都市、オスマン時代は街道沿いの宿場町としての役割を担ってきた。チャルシュは東西に延びる街道及び街道と平行する2本の通りと街道に直交する3本の通りによって、格子状の平面形態をとる。チャルシュの西側、広場を挟んだ街道沿いにかつての隊商宿、ハンがある。ハン は19世紀末に建造されたもので、調査時は内部の壁や天井が一部崩れ、使用できない状態となっていたが今後、修復が予定されている。チャルシュの街道沿いに面する店舗は利用する住民で賑わいをみせていたが、南側の2つの通りは木造の1,2階建ての伝統的な建築物が多く並び、空き店舗が多く閑散としていた。仕立屋などの工房が数軒残っている。タラクルは伝統的な木造住宅の修復に力を注いでいる町であり、木工芸のアトリエもある。チャルシュの南西角に位置する1軒は修復され、土曜の定期市に合わせて、家庭料理のギョズレメ⁹をその場で焼いて販売する店と工芸品の織物を販売する店を土曜のみ開き、観光用に活用している。チャルシュの南西にユヌス・パシャ・ジャミイ（別名クルシュンル・ジャミイ、1517年建造）、東端にアシャウ・ジャミイが位置する。

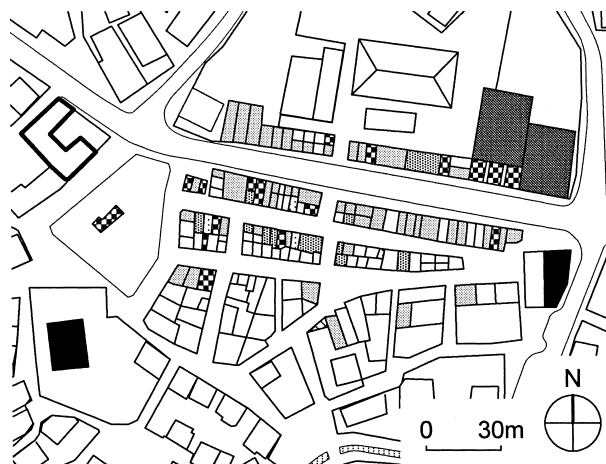


図4. タラクル チャルシュ平面図

③ムドゥルヌ Mudurnu 人口5,955人

古代からの長い歴史を有する町で、ビザンツ時代には丘の上に城塞が築かれていた。アンカラからイスタンブールへ山道を抜ける旧交易ルート沿いの拠点であり、町の中心にはウルドゥズ・バヤジッド・ジャミイとハمامのキュリイェが残っている。チャルシュは南北に町を貫く街道とその東側に平行する3本の通りと直交する4本の通りによって格子状の平

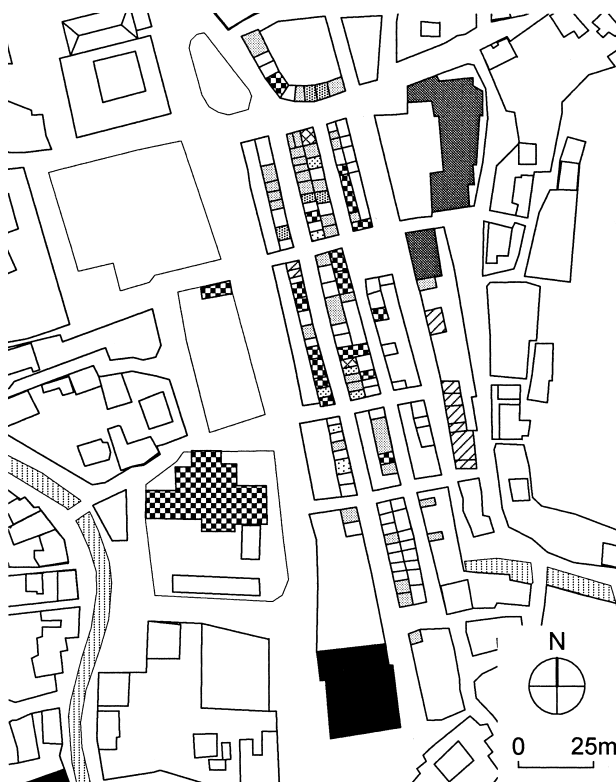


図5. ムドゥルヌ チャルシュ平面図

面形態をとる。東奥の通りには金物加工の工房が並ぶ。馬具屋など金物以外にも工房が残っているが、いずれも建物は老朽化し、職人の高齢化、後継者不足の問題も抱え、空き店舗が増えている現状である。チャルシュ全体の保存プロジェクトが進行している。

④ボル Bolu 人口 84,565 人

ボル県の県都。チャルシュは高台に位置するため「ユカル・チャルシュ」（上の市場の意）と呼ばれ、新市街の大通りとは約2層分の段差があり、新市街とは階段で連絡している。チャルシュは大通りと平行する5本の通りと直交する5本の通りから格子状の平面形態となっている。チャルシュの南西部にユルドゥルム・ジャミイが位置し、ジャミイの西に2つのタシュハン、ユカル・タシュハン（上のタシュハンの意）とアシャウ・タシュハン（下のタシュハンの意）がある。アシャウ・タシュハンは1750年建造、ユカル・タシュハンは1804年建造のものであり、ユカル・タシュハンは2004年に修復され、現在は宗教関連の店舗や床屋、カフェが入っている。チャルシュ全体をみると布製品と革製品の店が多くなっている。

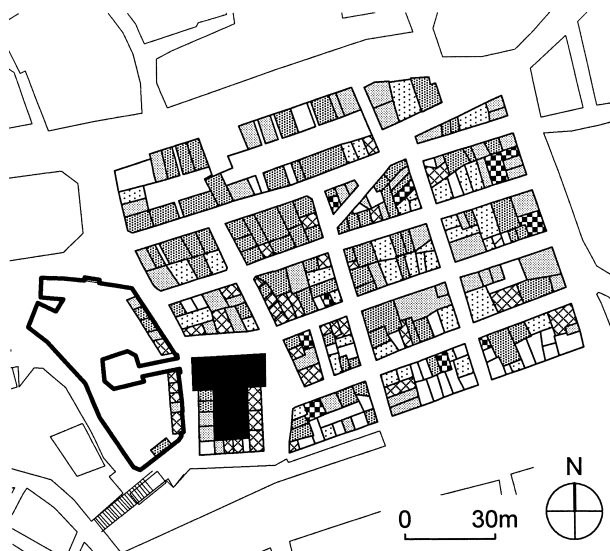


図6. ボル チャルシュ平面図

⑤サフランボル Safranbolu 人口 31,697 人

黒海地方に位置し、かつては黒海から地中海へ抜ける街道沿いの交易都市として繁栄した。町は谷間の旧市街、高台の新市街、夏の居住地であったバーラル地区の3地区から構成されている。谷底に広がる旧市街全体がチャルシュである。チャルシュの中央に位置する中庭型のジンジ・ハンはハمامと共に17世紀に建設された。ハمامの横にエスキ・ジャミイがあり、その間の広場が旧市街の入り口の役割を担っている。世界遺産に登録されて以降、観光化が進み、歴史建造物の修復だけでなく、石畳の整備や観光用のカートなども登場している。アラスタは革靴工場の並ぶ中庭型の施設であったが、現在は土産物店が並ぶ。チャルシュの南側にドアノブ等の金物を扱う工房通りデミレルジ・チャルシュ（金物市場の意）がある。近年ファサードが修復され、職人街も観光スポットにしようと試みられている。



図7. サフランボル チャルシュ平面図

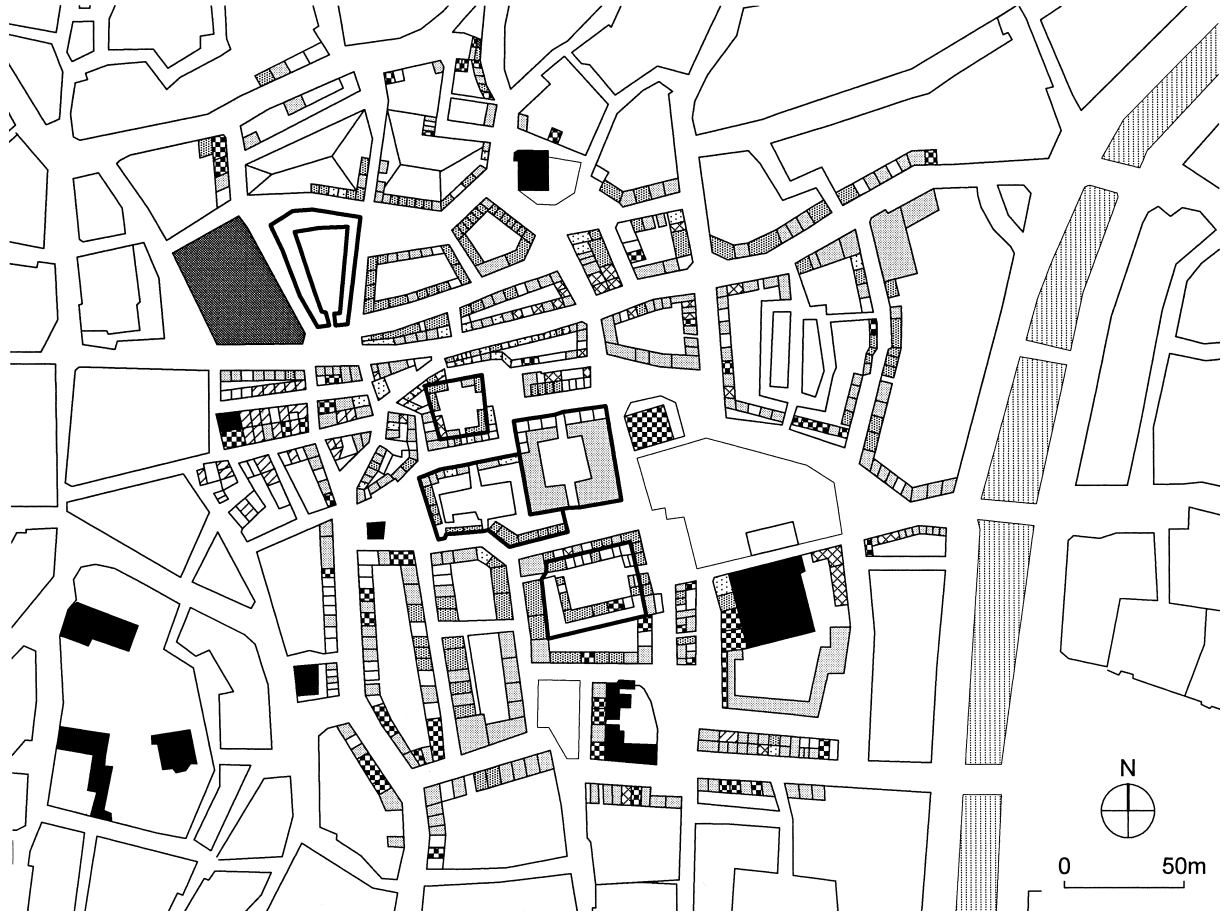


図 8. カスタモヌ チャルシュ平面図

⑥カスタモヌ Kastamonu 人口 64,750 人

長い歴史を有する町であるが、現在の都市の骨格はビザンツ時代に遡る。市の南東部の岩山に城塞が築かれ、現在も町のシンボルとして町を見下ろしている。カスタモヌは、黒海と内陸を結ぶ街道の拠点として発展してきた都市である。

町の中心部にはナスラフ・ジャミィを中心とするキュリエと広場がある。広場の周辺にチャルシュが広がり、ジェム・スルタン・ベデステン（15世紀建造）、クルシュンル・ハン（別名イスマイル・ベイ・ハン。15世紀建造）、ペンベ・ハン（別名バルカバヌ・ハン。1481-1512年建造）、ヤヌック・ハン（17世紀建造）、アシュル・エフェンディ・ハン（18世紀建造）、と多くの歴史建造物が広場の西側に位置し、現在も修復、活用されている。ベデステンは1780年に火事にあい、1802年に修復、1951年以降は野菜市場として使用された。その後、1994年に再度修復の手が加わり、2階と1階のホール部分はカフ

ェに、ホールを取り囲む6軒はスカーフや衣料品販売の店舗になっている。ベデステンの東側に位置するクルシュンル・ハンは、28室の客室をもつホテルとしてリニューアルされ、2008年8月にオープンしたところである。ベデステンの南側、クルシュンル・ハンの西側に壁を接して位置するペンベ・ハンには中庭をギャラリーとして活用し、2階には手工芸品の店が並ぶ。ベデステンの西側には金物加工の工房が並ぶ。また、ベデステンの北側には革製品、特に靴屋が多く、さらにその北側、野菜市場との間のエリアには衣料品の店舗が多く集まっている。広場の北側には肉屋の市場があり、肉料理のレストランも点在する。広場南側のナスラフ・ジャミィの裏手には旧メドレッセがあり、中庭をカフェ、取り囲む小部屋は手工芸品の店舗や工房として活用している。

⑦ナルハン Nallıhan 人口 17,181 人

ヒットイト時代からの長い歴史を有し、ローマ時代は商業及び軍事上の街道の拠点として機能していた。トルコ人が主権を握って町をつくり始めたのは11世紀になってからである。チャルシュの南西に位置するコジャ・ハンは1595年にナスフ・パシャ・ジャミイ、ハمامと共にキュリイェとして建設されたものである。ハمامは残っていないが、ジャミイは1911年に再建されたものが建っている。チャルシュはコジャ・ハンの長手壁面と平行する4本の通りと直交する7本の通りによって格子状の平面形態となっている。チャルシュ内部は業種毎にエリア分けはされておらず、様々な業種の店舗が混在する。靴屋などの工房もある。

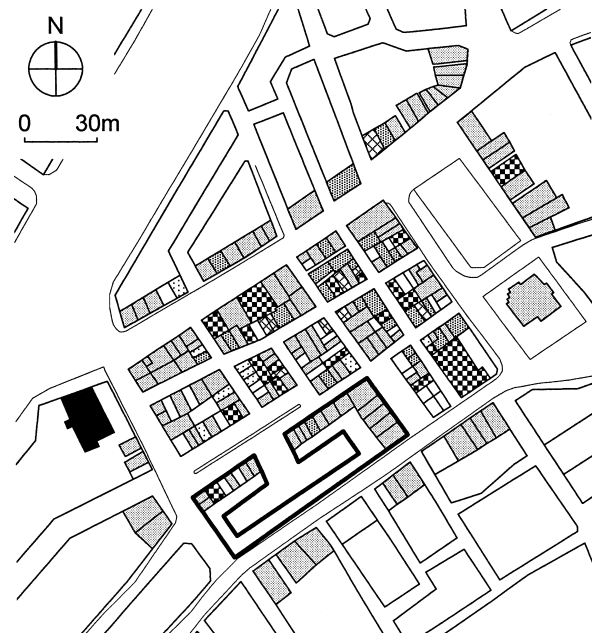


図9. ナルハン チャルシュ平面図

⑧ベイパザル Beypazarı 人口 34,441 人

アンカラから西へ約95kmに位置する。チャルシュの南西に位置するスルハンは1683年建造のも

ので、かつての隊商宿である。2008年8月現在は修復工事が進行していた。チャルシュは格子状の平面形態で、2008年3月には路面の舗装工事がなさ



図10. ベイパザル チャルシュ平面図

れていた。服の仕立て、布団の仕立て、靴、金物、馬具など工房が多くみられる。また、チャルシュ内にジャミィ、床屋、チャイハネが点在し、コミュニケーションの場となっている。チャルシュのやや西に位置する広場では、週末に観光客向けの市が開かれる。

そこから続く通りにも露店及び常設店舗が張り出す。そのため、土産物店も多い。アンカラから車で2、3時間と近いために週末の日帰り観光地として賑わう。

⑨コンヤ Konya 人口 691,106 人¹⁰

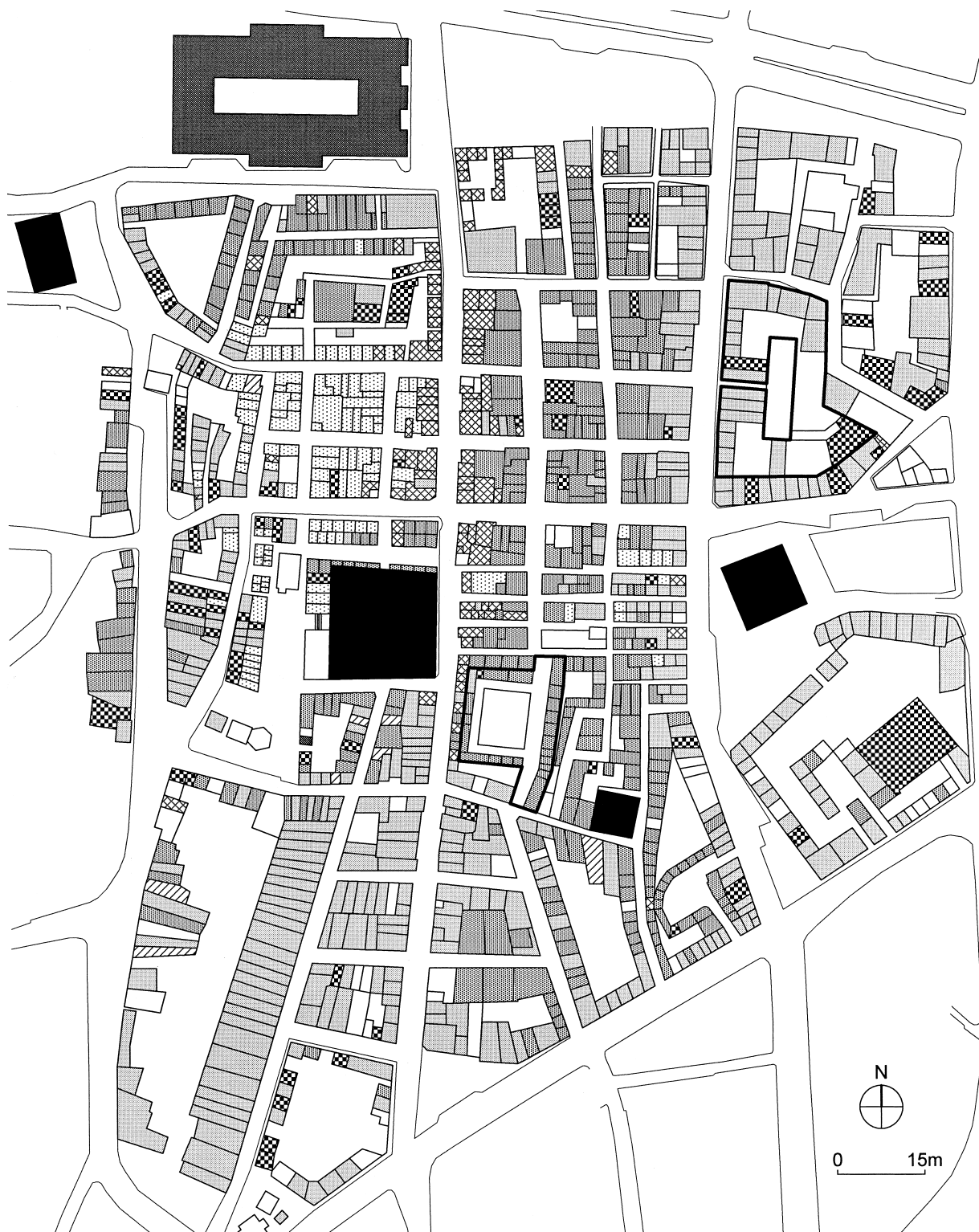


図 11. コンヤ チャルシュ平面図

13 世紀に全盛期を迎え、発展した町であり、交易都市としての歴史も長い。チャルシュは現在のメインストリートとなっているアラエッディンの丘とメブラーナ博物館を結ぶメブラーナ通りの南側に位置する。チャルシュはメブラーナ通りに平行する通りと直交する通りによって格子状の平面形態になっている。チャルシュ内にはジャミィとチャイハネが点在し、店舗や工房は、靴、衣料品、貴金属、家具、といったように業種毎にエリア分けが明確である。13 世紀建造のメドレッセなど歴史建造物の多い町であり、特にメブラーナ博物館は海外からの観光客も多いスポットとなっている。

⑩アフヨン Afyon 人口 128,516 人

アフヨン県の県都。正式にはアフヨンカラヒサー

ルという都市名である。ヒサルは要塞という意味であり、チャルシュ裏手の高台となっている岩山にはビザンツ時代の城塞が残っている。チャルシュの中心部には 20 世紀初頭に建設されたベデステンと 17 世紀に建造されたタシュハンがある。ベデステンは他の都市のベデステンとは空間形態が異なり、屋根のかかった通りの複合体となっている。タシュハンは今後修復保存される予定であるため、入口の工房のみが使用されていた。タシュハンの外壁と背中合わせに並んでいた店舗群はタシュハン修復のために取り壊されたようである。ベデステンの西側は通りがベデステンにならって並び、格子状の肉屋の市場になっている。ベデステンとその周辺には布製品の店が多く集まり、北側には金物関係の工房や靴屋が集中している。



図 12. アフヨン チャルシュ平面図

⑪キュタフヤ Kütahya 人口 166,665 人

紀元前から歴史を有する町であり、現在はタイルと陶器の町として知られている。町の西側の高台に

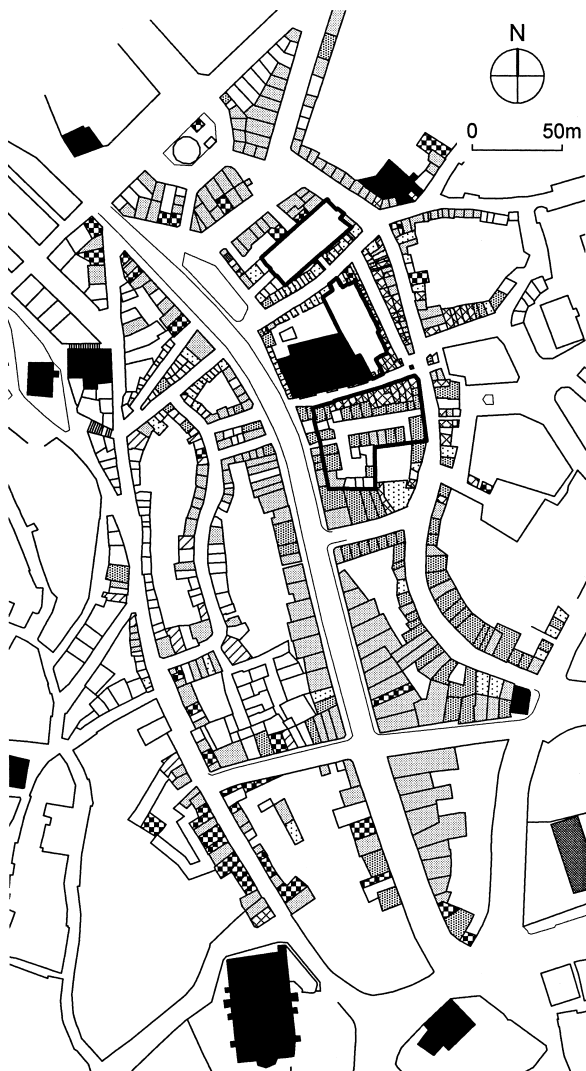


図 13. キュタフヤ チャルシュ平面図

ビザンツ時代の城塞跡が残る。城塞足元の東側に位置するチャルシュには、2つのベデステンが残り、2008 年調査時は2つとも修復工事中であり、今後、再活用される予定となっていた。2つのベデステンのうち、南側に位置するクチュック・ベデステン（小さなベデステンの意）は14世紀建造のもので、北側のブユック・ベデステン（大きなベデステンの意）は15世紀に建造されたものである。2つのベデステンの間は靴の販売・工房エリアとなっており、クチュック・ベデステンの東及び南側にL字型に金製品のエリアが広がる。クチュック・ベデステンの南側にピリンチ・ハンがあり、ハンとその南側が布製品エリアである。ハンの西側の大通りを挟んだ一画が金物関係の工房エリアとなっており、その奥の南側に15世紀建造のウル・ジャミィが位置している。

2) 平面形態と構成からみる特質

11 都市についてチャルシュの現状を記録し、チャルシュ平面図を作図したところ、形態面からは格子状の平面形態が多いこと、構成面からは業種別分布が都市規模によって違いがあること、また、全体を通して工房が伝統的な産業を継承しながら現在も機能していること、ジャミィやチャイハネなどコミュニティの中心となる施設や空き店舗、倉庫が点在していることが特質として表れてきた。11 都市について都市規模を現在の人口から判断して、規模の小さな都市から並べ、それぞれのチャルシュ平面図に記載した内容を整理したものが表 1 である。格子状の平面形態、業種によるエリア分けの欄は該当する

表 1. 都市別チャルシュ構成一覧

都市名	都市部の人口 (2000 年)	格子状の 平面形態	業種による エリア分け	歴史的な商業施設			工 房				コミュニティ 関連施設	倉庫 空き店舗	公共施設	宗教関連 施設
				ベデステン	ハン	アラスタ	布製品	革製品	貴金属	その他				
タラクル	4,146	○			●*3		○	○			○	○	○	○
ギョイヌック	4,984						○			○	○	○	○	○
ムドルヌ	5,955	○					○	○		○	○	○	○	○
ナルハン	17,181	○			●*3		○	○			○	○		○
サフランボル	31,697		●*4		○	○	○	○		○	○	○	○	○
バイパザル	34,441	○	○		●*3		○	○	○	○	○	○		○
カスタモヌ	64,750		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
ボル	84,565	○	○		○		○	○		○	○	○		○
アフヨン	128,516	●*2	○	○	●*3		○	○		○	○	○		○
キュタフヤ	166,665		○	●*3	○		○	○		○	○	○	○	○
コンヤ*1	691,106	○	○		○		○	○		○	○	○	○	○

*1: コンヤの人口は都心部（セルチュク区、メラム区、カラタイ区）の人口

*2: 中心部のみ

*3: 修復工事中もしくは今後修復予定のため調査時は未使用の状態であったもの

*4: 一部残っている

ものに○印をつけ、他の項目については該当する施設がある場合に○印をつけている。部分的に該当する等の事情がある場合は●印とし、欄外に註釈をつけた。以下、これらの特質について具体的に解説する。

①平面形態と構成全体の特質

チャルシュ平面図から平面形態の特徴をみると、タラクル、ムドゥルヌ、ボル、ナルハン、ベイパザル、コンヤの6都市及びアフヨンの中心部が格子状の形態となっている。中でもナルハン、コンヤ、アフヨンではチャルシュの核的な存在であるハンやベデステンの壁に沿って、縦横に通りが配置され、計画的に整備したことが窺える。格子状平面に該当しなかったギョイヌックとサフランボルは起伏に富んだ地形の影響から、直交する通りを複数通すことは難しかったものと考えられる。

次にチャルシュの構成について業種別分布からみると、都市規模¹¹により違いがみられる。ギョイヌックやタラクルなど小規模な都市はチャルシュの規模も小さいため、チャイハネ、食料品店、衣料品店、床屋、雑貨屋など日常生活に必要な店が一通り揃っており、それぞれ数軒ずつ点在する。中規模な都市、ボルとベイパザルは、おおよそ業種によるエリア分けがなされている。ボルは靴や鞆などの革製品、衣類やシャツ、スカーフなどの布製品、ベイパザルは金物、革製品、布製品などの工房及び販売というように業種に偏りがみられる。サフランボルは今も残る通り名から業種毎にエリア分けがなされていたことがわかるが、現在は観光化したことにより工房の数が減り、店舗も圧倒的に土産物店と変化している。名称通りの業種エリアはデミレルジ・チャルシュ（金物市場）のみであり、他のエリアでは部分的に数店舗が継続しているのみである。コンヤやキュタフヤなど大規模な都市は、チャルシュの規模も大きく、革製品、布製品、貴金属、家具、金物といった業種毎にまとまったエリアを形成し、ジャミィ、チャイハネ、食堂、床屋など、人々の交流の場となる要素がその中に点在する。革製品、布製品、貴金属、金物のエリアには、靴の仕立て・修理、服の仕立て、布団の仕立て、銀細工、金物加工などの工房も含ま

れている。歴史的な商業施設はハンの数が多く、ベデステンは規模の大きな都市に存在しており、いずれの施設も修復、活用されている。

②工房の内容と位置づけ

工房はチャルシュを構成する一要素であるが、先にも述べた通り、業種毎にエリアを形成している場合も多く、内容については伝統を継承しているものであるため、特に着目して分析する。いずれの都市においても高齢化、後継者不足という問題は抱えつつも、伝統的な業種が残っている（表2参照）。

全体を通して一番多くみかけたのは、靴の仕立て・修理の工房である。販売のみの店舗をみても靴屋は圧倒的に多くみられた。布製品の店舗も多く、工房としては服や布団の仕立屋である。貴金属に関しては販売を専門とするものが多く、工房はベイパザルとカスタモヌの2都市でみられた。農機具やストーブなどの金物加工の工房は扱う商品が大きくなるため、作業スペースを広く取っているものが多い。また、都市部ではほとんど姿をみるることのできない馬であるが、村では家畜として飼われており、チャルシュ内に馬具の工房が幾つか残っている。木工芸は木造の伝統的な住宅の修復とも関連し、住宅内部の部材の製作が行われたり、台所用品のような小物を製作したりと、商品の幅がある。また、サフランボルのように観光化し、元来その場所にあった工房の業種とは異なる店舗に変わっている場合も伝統的な工芸品を商品として売り、店頭でその商品を製作する。例えば、刺繍の施されたテーブルクロスを売る店では刺繍をしている等である。工房は住民や周辺の村人に必要とされるだけでなく、伝統工芸品の製作など観光に役立つ要素ともなり得るため、これらを継承、活用していくことは重要である。

③コミュニティの中心となる施設

ジャミィ、チャイハネ、食堂、床屋など、同業種でエリアを形成せずに点在している施設は、住民の他、チャルシュで働く人々が日常的に利用する施設である。いずれも生活に欠かせない施設であり、また、コミュニティの中心となる施設である¹²。但し、

表 2. 工房事例一覧

2-01	都市名	サフランボル	2-02	都市名	カスタモヌ	2-03	都市名	バイパザル
	内 容	服の仕立て		内 容	服の仕立て		内 容	服の仕立て
2-04	都市名	バイパザル	2-05	都市名	サフランボル	2-06	都市名	カスタモヌ
	内 容	布団の仕立て		内 容	民家の形のランプ		内 容	靴修理
2-07	都市名	ボル	2-08	都市名	サフランボル	2-09	都市名	アフヨン
	内 容	靴屋		内 容	靴屋		内 容	靴屋
2-10	都市名	バイパザル	2-11	都市名	アフヨン	2-12	都市名	サフランボル
	内 容	銀細工		内 容	板金		内 容	金物
2-13	都市名	バイパザル	2-14	都市名	キュタフヤ	2-15	都市名	ムドゥルヌ
	内 容	馬具		内 容	馬具		内 容	馬具
2-16	都市名	タラクル	2-17	都市名	アフヨン	2-18	都市名	サフランボル
	内 容	木工芸		内 容	木工芸		内 容	刺繍

チャイハネに関して、配達専門のチャイハネは極小さなスペースで成り立つため、建物内部の一角で営業しているものもあり、調査で全てを把握できていない。配達先はチャルシュ内の店舗や工房であり、インターフォンで配達サービスのシステムが出来上がっている。ネットワークの観点からも配達専門のチャイハネについては、今後追加調査が必要である。

④店舗の変化

全ての都市において、空き店舗と倉庫が複数存在していた。チャルシュは町の中心に位置しているものの、必ずしも本研究で対象としているチャルシュのみが都市のセンター機能を担うものではなく、新たにセンター機能を担うエリアとともに存在し、チャルシュ自体の店舗密度が低くなっているものと考えられる。倉庫は、それまで同店舗の上階のみ使用していたが空き店舗の増加によって、倉庫としての活用がなされているものが多く、空き店舗と同じ分類とした。空き店舗の存在が大きく影響している都市は、ギョイヌック、タラクル、ムドゥルヌなどの小規模な都市である。住民の高齢化、過疎化が進み、空き店舗が増え、3回にわたる調査すべてにおいて閑散としていた。現在のチャルシュ利用者を施設の機能から考慮すると、その都市に暮らす住民と周辺農村の住民が中心となるが、いずれの都市も観光に力を入れているため、観光客も利用者として対象となる。しかし、観光客の多いベイパザル、コンヤ、アフヨン、キュタフヤに関しても、チャルシュ利用者のほとんどが地元住民、もしくは近隣の村人である。唯一、サフランボルは旧市街が世界遺産に指定されているため、チャルシュは観光客で賑わいをみせている。ただ、高齢化の問題は同じく抱えており、観光化とともに工房の数が減り、土産物店が大部分を占め、本来の町の姿が影を潜めている。

5. 歴史建造物の保存と空間活用

次にチャルシュ内の歴史建造物の空間活用について空間形態の種別毎に現状をみる。対象としている14都市は、いずれも歴史ある都市であり、都市中心部にも歴史建造物が保存、活用されている。歴史

建造物の保存は文化遺産保存の観点から重要であり、単に保存するだけでなく活用することによって都市中心部の活性化に役立つ資産となり、都市の歴史を物語る要素となる¹³。チャルシュ内の歴史建造物として、ジャミィ、ハمامの他、商業施設としてベデステン、ハン、アラスタの3施設が挙げられる。また、これら3施設のように1つの建築物として建てられたもの以外に店舗群の連なる通り状の空間にも伝統的なものがある。屋根がかかり、出入り口に扉ができ、施設化するものもあり、特に大規模なチャルシュとなると複数の通りが連結され、網目状の平面形態となる。屋根付きの通りの複合体がイスタンブルやブルサのカパル・チャルシュである。カパル・チャルシュの場合、単に通りでなく、ベデステンやハンも連結し、一大商業空間となっている点が特徴的である。また、かつてはハمامやメドレッセのように他の機能を有していた建造物を商業施設として再利用しているものもある。

空間形態は、大きく建築単体と複合体の2グループに分けられる。さらに、建築単体は3つの歴史的な商業施設と商業以外の機能を有していた施設の4タイプに分けられ、複合体と合わせて5つのタイプとなる。5つのタイプ名を空間形態から、ベデステン、ハン、アラスタ、店舗群、その他とし、調査対象地において活用されている空間についてタイプ別にまとめたものが表3である。

表3では歴史建造物と空間について、事例毎に「都市名」「タイプ名」「名称」「現状」「解説」「現状写真」を記載する。「現状」については、そのエリアでの取扱商品が限られている場合、その商品の専門市場として記載する（例：金製品の市場）。取扱商品が多岐にわたる場合や、店舗だけでなく工房やギャラリーなど多様な機能をもっている場合には、複合商業施設と表記する。また、現状の下に「店舗・工房・カフェ・水場・その他」の欄を設け、該当するものがある場合には○印をつける。このうちカフェは店舗にも入るが、特にハンの中庭がカフェ空間となるものが多かったために、交流の場として着目する。水場もハンの中庭中央部に位置するものが多く、カフェと同様に中庭の活用に役立っているため、

表 3. チャルシュの歴史建造物及び空間の活用一覧

凡例														
事例NO.	都市名	タイプ名			3-01	イスタンブル	ベデステン	3-02	イスタンブル	ベデステン	3-03	ブルサ	ベデステン	
名称					エスキ・ベデステン			サンダル・ベデステン			ユルドゥルム・ベデステン			
現状					金製品の市場			布製品の市場			金製品の市場			
店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房	カフェ	水場	その他
該当する項目: ○					○			○			○			
解説					1545年に建造されて以来、カバル・チャルシュの核となっている。10の小ドームが連なり、ひとつの大きな空間を構成している。カバル・チャルシュ自体、数回の火事、地震によって壊れており、修復されながら、現代に至る。			エスキ・ベデステンの後に建設される。現在は布製品の市場になっている。小ドームが連なり、ホール空間を作っている。			オスマン時代、初のベデステン。14世紀末に建設された。現在は金製品の市場となっている。1956年に大火事にあい、1960年に修復されている。			
現状写真														
3-04	カスタモヌ	ベデステン			3-05	アフヨン	ベデステン	3-06	アンカラ	ベデステン	3-07	ペイバザル	ベデステン	
ジェム・スルタン・ベデステン					ベデステン			ベデステン			ベデステン			
手工芸品の市場					布製品の市場			考古学博物館			商店街			
店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房	カフェ	水場	その他
○					○			○			○			
15世紀建造。規模は21.65m×21.75mで、9つの小ドームを有する。1780年に火事にあい、1802年に修復。1951年に野菜市場となるが、1994年に再度修復の手が加わり、現在は手工芸品の店とカフェが並ぶ。					他のベデステンのように小ドームが連なり、ホール空間を形成する構成ではなく、通りの複合体になっている。1914年にフランス人建築家によって建設された。			15世紀建造。現在はアナトリア文明博物館として利用されている。中央のホールは10の小ドームによってできている。			屋根はかかっておらず、空間の形式としてはアラスタで、通りの両サイドに店舗が並ぶ構成であるが、店舗数は少ない。野菜市場の横に抜けている。			
														
3-08	キュタフヤ	ベデステン			3-09	キュタフヤ	ベデステン	3-10	ブルサ	ハン	3-11	ブルサ	ハン	
ブユック・ベデステン					クチュック・ベデステン			エミール・ハン			エスキ・イベッキ・ハン			
修復中					修復中			複合商業施設			複合商業施設			
店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房	カフェ	水場	その他
○					○			○			○			
大きなベデステンの意味。15世紀建造。2008年8月現在修復工事中であった。修復以前は野菜の市場として使用されていた。ホール形式で中央に泉がある。南側の出入り口外側にカフェがある。					小さなベデステンの意味。14世紀建造。2008年8月現在修復工事中であった。靴屋の商店街に囲まれるように位置している。ブユック・ベデステンの南側の出入り口の向かい側に出入り口がある。			14世紀建造。ウル・ジャミの前に位置し、ブルサのチャルシュの中で一番歴史を有する商業施設である。中庭には泉がある。			イベッキは絹の意味。15世紀建造。1557, 1632, 1742, 1775年に修復されている。中庭は緑豊かなカフェの空間になっている。			
														
3-12	ブルサ	ハン			3-13	ブルサ	ハン	3-14	ブルサ	ハン	3-15	ブルサ	ハン	
ゲイヴェ・ハン					バリベイ・ハン			トゥズ・ハン			コザ・ハン			
複合商業施設					複合商業施設			複合商業施設			シルク製品の市場			
店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房	カフェ	水場	その他
○					○			○			○			
15世紀建造のハン。1647, 1669, 1742, 1775年に修復されている。近年新たに修復工事が進んでおり、閉ざされていた北側の出入り口が開けられた。					城壁下の斜面地に建つハン。近年修復され、階段状にフロアが並び、城塞のある高台及び下の大通りからアクセスできる。カフェやレストランのほか、ギャラリーも入っている。			1454年建造。2007年に修復され、現在は結婚式に関係する店舗が多い。北側はオクチュラル・チャルシュに面し、南側は香辛料の市場へとつながっている。			1491年完成。1630, 1671, 1784年に修復されている。2つの中庭を有するハンである。メインの中庭の中央には礼拝所が作られている。礼拝所は1946年と2007年に修復されている。中庭はカフェとして活用されている。			
														

3-16	ブルサ	ハン	3-17	ブルサ	ハン	3-18	ブルサ	ハン	3-19	カスタモヌ	ハン			
フィダン・ハン			ピリンチ・ハン			タフタカレ・ハン			ベンベ・ハン					
複合商業施設			複合商業施設			複合商業施設			手工芸品の市場					
店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房	カフェ	水場	その他
○		○	○	○	○		○		○	○		○		
フィダンは苗木の意味。2階に50部屋、1階に48部屋あり、中庭は緑豊かなカフェ空間になっている。1561、1603、1656、1760年に修復されている。布地を扱う店が多い。			1508年の建造。中庭を囲んで2階に40部屋、1階に38部屋あり、店舗として活用されている。中庭は多数のカフェのバラソルで埋め尽くされている。			別名ヨーグルトのハン。中庭に大きな施設が建っており、カフェと事務所が入っている。また、隙間を縫うように野菜の半屋外店舗が並ぶ。			別名バルカバヌ・ハン。1481-1512年に建造された。現在の施設は2005年に修復の手が加わり、2006年にオープンした。建築部分は1辺のみで、1階はカフェ、2階は手工芸品の店舗が並ぶ。2008年8月の調査時は中庭で写真展を開催していた。					
3-20	カスタモヌ	ハン	3-21	カスタモヌ	ハン	3-22	カスタモヌ	ハン	3-23	サフランボル	ハン			
クルシュル・ハン			アシュル・エフェンディ・ハン			ヤヌック・ハン			ジンジ・ハン					
ホテル			布製品の市場			閉鎖中			ホテル					
店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房	カフェ	水場	その他
		○	○		○	○	○	○	○			○	○	
2008年8月の調査時にホテルとしての改修工事が終了し、オープニングを迎えた。かつてのホール部分を受付と食堂に活用していた。15世紀半ばに建造されたもので、イスマイル・ベイ・ハンという名称もある。			1748年の建造。広場へ面する南側と北側の商店街に出入り口があり、中庭にカフェがある。18世紀に建造され、1814、1838、1970年に修復の手が入っている。			17世紀の建造で19世紀初頭に修復されている。2008年調査時は、内部へ立ち入ることができなかった。週に2度開催される野菜市場の隣に位置する。中庭には泉がある。			客室数25部屋のホテルとして再生し、1階のホール部分はレストランになっている。レストランは結婚式のパーティ会場としても活用されている。					
3-24	ボル	ハン	3-25	ボル	ハン	3-26	タラクル	ハン	3-27	ベイパザル	ハン			
ユカル・タシュハン			アシャウ・タシュハン			ハン			スルハン					
複合商業施設			衣料品店			今後修復予定			修復中					
店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房	カフェ	水場	その他
○		○	○	○	○					○				
上のタシュハンの意味で、下のタシュハンに続いて1804年に建設された。宗教関連の店舗、床屋、革製品の店が並ぶ。中央はカフェになっている。1階奥にトイレもある。			下のタシュハンの意味。ウル・ジャミの西側にまずこの「下のタシュハン」が1750年に建設され、後に「上のタシュハン」が増築された。現在は衣料品店1軒が入っている。			19世紀の建造。現在は床や壁の一部が破損し、建物内部に入るのは危険な状態である。今後の修復が期待される。			チャルシュの西側、工房エリアに接して建つ。大きな中庭とホールを有する。1683年建造。2008年調査時は修復工事中であった。					
3-28	ナルハン	ハン	3-29	コンヤ	ハン	3-30	コンヤ	ハン	3-31	アフオン	ハン			
コジャ・ハン			ハジュ・イブラヒム・イシュ・ハン			メジディエ・ハン			タシュハン					
修復中			複合商業施設			布製品の市場			今後修復予定					
店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房	カフェ	水場	その他
○					○	○		○			○		○	
ジャミイ、ハマムとともにキュリイェのひとつとして1595年に建設された。ジャミイは1911年に再建され、ハマムは残っていない。2008年調査時は修復工事中であった。外側に数軒営業している店舗があった。			中庭側に面して、工房や倉庫が並び、中庭奥の通路の突き当たりに食堂が1軒入っている。外側の街路に面して店舗が並ぶ。			チャルシュの中、ジャミイのすぐ近くに位置し、中庭への出入り口に門がついている。スカーフや布地の市場であり、2008年調査時は62軒が営業していた。			17世紀半ばに建造されたもので、ベデステンの横に建つ。現在は出入り口の工房のみ営業しており、内部は今後修復される予定である。1981年に保存建造物に登録されている。					

3-32	アフヨン	ハン	3-33	キュタフヤ	ハン	3-34	イスタンブル	アラスタ	3-35	サフランボル	アラスタ
カドゥンラル・バザル			ピリンチ・ハン			ムスル・チャルシュ			イエメニジレル・アラスタ		
布製品の市場			布製品の市場			香辛料の市場			手工芸品の市場		
店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房
○	○			○	○	○				○	○
複数の建物がつながり、中庭を有する平面構成になっている。布製品や布団の店舗や工房が多い。			現在は、布製品や布団販売の店舗や工房が多い市場である。家具や絨毯などの店も並ぶ。中庭はL字型になっている。			香辛料の市場であるが、近年は土産物店の数が増えている。イエニ・ジャミのキュリエのひとつとして建設され、エジプト市場とも呼ばれている。			革靴の工房が並ぶ施設であった。現在は手工芸品や土産物店が並ぶ。通りはぶどう棚が覆いかぶさり、心地よい木陰を作っている。		
3-36	イスタンブル	店舗群	3-37	ブルサ	店舗群	3-38	ブルサ	店舗群	3-39	ブルサ	店舗群
カバル・チャルシュ			カバル・チャルシュ			バクルジュラル・チャルシュ			イワス・バジャ・チャルシュ		
商店街			商店街			商店街			商店街		
店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
イスタンブル旧市街中心部の屋根付き市場。2つのペデステン、複数のハンを有するが、多くは通りの複合体である。			ペデステンの南側に隣接する通りに屋根がかかっている。ゲートの外はウズン・チャルシュへとつながる。			金物市場の意味。ウル・ジャミの西側に位置する。			隣接するイワス・バジャ・ジャミとともに15世紀に建設される。家具屋、衣料品店などが並ぶ。		
3-40	ブルサ	店舗群	3-41	ブルサ	店舗群	3-42	ブルサ	店舗群	3-43	サフランボル	店舗群
ウズン・チャルシュ			オクチュラル・チャルシュ			トゥズ・バザル			マニフェクチュラル・チャルシュ		
商店街			商店街			野菜市場			商店街		
店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房
○					○					○	○
通りに透明な屋根が取り付けられた。通りに面する歴史建造物のファサードが見えるように配慮されている。			通りに透明な屋根が取り付けられ、天候に関わりなく買い物ができるようになっている。			塩の市場の意味。現在は野菜市場となっている。統一された庇が取り付けられている。			布地の市場という名称の通り。現在はカフェやお菓子、手工芸品などの土産物店が軒を連ねる。以前は工房を兼ねた店舗もあったが、職人の高齢化によって減少していく傾向である。		
3-44	ブルサ	店舗群	3-45	サフランボル	店舗群	3-46	ブルサ	その他	3-47	カスタモヌ	その他
ウルガンドゥ橋			デミレルジ・チャルシュ			エスキ・アイナル・チャルシュ			エルサナットラル・チャルシュ		
手工芸品の市場			金物市場			アンティークの市場			手工芸品の市場		
店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房	カフェ	水場	その他	店舗	工房
○	○	○			○					○	○
近年、橋上の商店街として再建された。現在は手工芸品のアトリエや土産物店、カフェが並ぶ。			ドアノブや農機具などの鉄製品を扱う工房が並び、販売も行っている。近年ファサードが修復された。			1339年にオルハン・ガジによって建設されたハмам。1584,1678,1962年に修復されている。1958年の火事の後、市場として活用されている。			ナスラフ・キュリエのひとつとして1746年に建設されたメドレッセ。1809,1814,1843,1862年に修復されている。1999年に再度修復され、23室に手工芸品の店舗や工房が並び、中庭はカフェになっている。入口にはトゥルベがある。		

着目している要素である。

タイプ別の活用件数は、ベデステン 9 件、ハン 24 件、アラスタ 2 件、店舗群 10 件、その他 2 件と、圧倒的にハンの活用が多くみられる。活用内容をタイプ別にみると、ベデステンはホール形式の大空間の中に小さく区画された店舗が並ぶ場合が多く、9 件中 7 件がこの形式である。元来、貴重品を取り扱う堅固な商業施設として耐火性を考慮し、石造建築となっており、屋根は小ドームが連なる形態となっている。この一体化した大空間に同業種、特に貴金属や布製品の店舗が並ぶ (3-01, 02, 03¹⁴)。金製品、布製品共に伝統的な商品であり、布製品もオスマン時代には高級な商品であったため、堅固なつくりのベデステンで伝統的に扱ってきた商品である。アンカラ (3-06) とベイパザル (3-07) 以外は商業施設としてチャルシュの中心的役割を現在も担っている。アンカラのベデステンは考古学博物館としての再利用であるが、建造物としては小ドームが並ぶオリジナルの空間形態を維持している。ベイパザルのベデステンはチャルシュの一画にあり、ゲートはついているものの、屋根はなく、ベデステンという名称がなければ見逃してしまいそうな通りである。キュタフヤの 2 つのベデステン (3-08, 09) は現在修復中であり、修復後の活用が期待される事例である。

ハン是最も多くみられた空間形態である。都市内にある場合、商品を取り引きするための事務所兼倉庫の役割を担ってきた。商人たちの宿、つまりホテルの役割を果たすものもあり、名称としてはハンが多く、その他、キャラバンサライと呼ばれるものもあった。いずれにも共通する点は建築空間の形態である。矩形の中庭を有し、2 層の建築物で中庭に面して回廊をもつ形態である。中でもブルサのハンの多く (3-10~16) は中庭に水場をもっている。ハンの名称にかつて取り扱っていた商品の名前がつくものもみられるが、その伝統を受け継ぐものは少なく、空間のみ継承し、複合化した活用が多い。カスタモヌのクルシュンル・ハン (3-20) とサフランボルのジンジ・ハン (3-23) はキャラバンサライであった空間を現代に活かしてホテルとして再生している。

アラスタは屋根付きの通りの両側に店舗が連なり、

全体が一つの施設として建造されたものである。ベデステン同様に施設全体のゲートがあり、管理されている。イスタンブルのムスル・チャルシュ (3-34) は香辛料の市場として、サフランボルのイェメニジェル・アラスタ (3-35) は革靴の工房及び市場として機能していたが、いずれも現在は土産物店が多く、観光化が進んでいる。

店舗群の事例としては、イスタンブルやブルサの複合化した商業空間であるカパル・チャルシュ (3-36, 37) のように多様な施設をつなぐ通りの形態もあれば、ブルサのバクルジュラル・チャルシュ (3-38) やイワス・パシャ・チャルシュ (3-39) のように同じ形式の店舗が連続して並び、空間形態としてはアラスタと同様に一体化した空間となっているものもある。また、ブルサのカパル・チャルシュ内のメインストリートから屋外に続いている通りがウズン・チャルシュ (3-40) とオクチュラル・チャルシュ (3-41) である。これらの通りには店舗群とハンが並び、近年、通りに面する建造物のファサードを保存し、ファサードを見せながらも利用者にとっては快適な空間を提供しよう、と、通り全体の高い位置に透明の屋根を設置するという新たな試みがなされている。ブルサでは、個々のハンの修復、活用も進んでいるが、チャルシュ全体を保全する動きも盛んであり、チャルシュが位置するオスマンガジ区が力を注いでいる。これらの修復活動は地域の利用者のためだけでなく、観光要素としての役割も担っている。ウズン・チャルシュの一街区北側に平行するようにトゥズ・パザル (3-42) があり、この周辺には生鮮食料品を扱う店舗が集まっている。トゥズ・パザルに面する店舗の底は統一した形で増設され、天候に左右されることなく買い物ができるように近年、整備がなされた。店舗群の中で特殊なタイプといえるが、ウルガンドゥ橋 (3-44) のように橋の上という立地の商店街も観光要素として着目され、再生した事例もある。サフランボルのデミレルジ・チャルシュ (3-45) はドアノブ等の鉄製品の工房が並ぶ一画であり、観光客向けの商品ではないが、サフランボルの伝統技術を見せる工房として、新たに観光要素として着目され、ファサードのみの修復がな

された事例である。

その他に該当する、元来、商業施設でなかった歴史建造物を商業施設として活用する事例には、ハمام（3-46）やメドレッセ（3-47）がある。ハمامはドーム下のホール空間がベデステンの空間形態に類似し、メドレッセは中庭を囲み、小部屋が並ぶ形式がハンに類似しているため、活用しやすいものと推測される。

以上のように、いずれの都市においてもチャルシュ内における歴史建造物の修復、活用は盛んになっている。かつてチャルシュの核となっていたベデステン、ハン、アラスタの3施設については、現代だけでなく歴史を振り返っても数回にわたって修復されているものもあり（表3参照）、長い年月にわたって維持されてきたことが確認できた。近年の修復後の活用としては、ホテルや伝統工芸品の販売など修復直前の機能とは変わるものの観光客の利用を見込んでの改造がみられた。

また、修復保存の視点から都市全体を観察すると、ジャミィやハمام、本稿で挙げた商業施設だけでなく、伝統的な木造住宅の保存にも各都市ともに力を入れている。サフランボルは伝統的な木造住宅が並ぶ旧市街の街並みが世界遺産に指定され、さらに保存、活用への拍車がかかっているが、他の都市においても同様に、街並みとして保存する方向で行政側は活動している。また、これらの保存、活用がその都市の観光化とも関連しており、世界遺産のサフランボルだけでなく、ベイパザルも週末になると多くの観光客で賑わいをみせる。

6. まとめ

今回対象とした14都市は、かつての交易ルート上の都市であり、商業活動が都市の発展に寄与してきたため、チャルシュが都市の中心部を形成している。都市によって現在の都市規模は異なるものの都市構成としては、チャルシュが都市センターの役割を果たし、伝統的な空間形態を維持するエリアに新しいものが入り込み、共存しながら発展している。人々が定期的集まることを誘引する場がチャルシュには多数存在し、交流空間としての役割を果たし

ている。

チャルシュを調査、分析したことにより以下の特徴を見出した。1点目はチャルシュの平面形態が、全都市の共通点ではないものの、多くの都市において格子状の形態をとっていることである。2点目はチャルシュの内部構成について都市規模の違いによる特徴がでたことである。規模の大きな都市の場合、業種によるエリア分けが明確であり、小規模な都市になると混在する傾向にある。3点目としては、どの都市においても業種に伝統産業の革製品、布製品、貴金属が欠かさず入っていることである。特に革製品と布製品は店舗だけでなく生産の場である工房も併設あるいは独立する形で存在していることも重要な特徴である。一方で、過疎化や高齢化などの問題を抱える都市も多く、チャルシュ内においても空き店舗や倉庫が増加傾向にあり、市場空間としての活気が失われつつある一画もみられる。この流れとともに工房の数も減少しているが、伝統技術は継承されており、伝統産業と観光化及び周辺の村との関連性から、今後も継続していく可能性、意義は大きいものと認識している。

チャルシュは都市センターとして長い歴史の中で都市を継承してきた場所であるため、伝統的な商業施設や木造の店舗群からなる空間が保存、修復、活用されてきた。都市の規模が大きくなるとベデステンやハンなどの歴史建造物が修復や用途変更を行いながら、チャルシュの核として現在も存在している。

いずれの都市においても、チャルシュには伝統の継承と活用が重要であり、チャルシュを形成する施設や空間といったハード面とチャルシュ内での店舗や工房での仕事内容といったソフト面の双方において、更なる活用が必要である。これら歴史建造物の保存、活用と伝統産業の継承に力を注ぐことで、チャルシュ全体の利用者の増加、活性化へとつなげていけるものと予測する。

7. 今後の課題

第3回調査で新たに調査対象に加えたコンヤ、アフヨン、キュタフヤの3都市は人口も多く、チャルシュのエリアも広いとため、チャルシュエリア内すべ

ての状況を把握しきれなかった。歴史建造物の中でも特にハンが多く残り、活用されていることが確認できたが、チャルシュ平面図に記載した内容は1層分のデータであり、2層ある場合は2層目のデータは表記することができなかった。今後、さらに2層分のデータを収集、記録する予定である。大規模なイスタンブルとブルサのチャルシュの調査、平面図作成も課題である。これらの課題は第4回調査で補充し、規模による構成の差や都市構造としての差など、さらに分析を進め、現地研究者、チャルシュ関係者、行政サイドとも意見交換を実施する。また、格子状の平面形態についての歴史的な背景は文献資料をさらに収集し、都市構造との関わりについても考察する予定である。

註

- 1 第1回及び第2回トルコ都市・市場空間調査に関して、参考文献020に調査結果及び考察内容を掲載。
- 2 第3回調査では継続して8都市の調査を実施するため、8都市から日程的に調査可能な範囲で旧交易都市を参考文献003及び各都市の公式サイト等を参考に検討し、調査対象14都市を選定した。
- 3 第1回及び第2回トルコ都市・市場空間調査で収集したデータによる。
- 4 正式な都市名はアフヨンカラヒサル。本稿では通称のアフヨンと表記する。
- 5 3施設の内容については参考文献020参照。
- 6 イスタンブルとブルサについてはチャルシュの規模が大きく、時間不足であったため、第3回調査ではイスタンブルでは露天市を対象に調査を実施し、ブルサでは修復に関する情報収集を行った。アンカラはトルコ共和国の首都となる際に都市計画により整備が進んだ都市である。そのため、本研究の対象となるチャルシュを特定することが難しく、城塞付近の現状把握のみ行った。3都市のチャルシュ平面図の作図は今後の課題である。
- 7 都市によっては、情報が収集しきれっていない部分もあるため、今後の調査で追加、補正する予定である。
- 8 人口は都市部の人口を示し、規模の大きな都市については都市の中心部の人口を表している。いずれも行政が把握している2000年の数値である。
- 9 小麦粉をこね、薄く延ばして焼いたクレープのようなもの。チーズや挽き肉を挟んで焼く。
- 10 都市の中心部としてセルチュク区、メラム区、カラタイ区の3区の人口を記載。
- 11 都市規模は現在の人口を基準とした。ボルは人口が多いものの、保存されているチャルシュの規模が小さいため、中規模とする。
- 12 詳細は参考文献020参照。
- 13 前章で述べたように過疎化、高齢化からチャルシュ自体の活気が失われつつある都市もあり、チャルシュ活性化のために歴史建造物の空間活用は有効な手段として行政側は認識しており、本研究では各都市の動向を把握するものである。
- 14 以下、() 内の番号は表3中の事例番号を示す。

参考文献

001. Türkiye Tarihi Yerler Kılavuzu, M.Orhan Bayrak, İnkılâp, 1994
002. Türk Kenti, Kemal Ahmet ARÜ, Yapı-Endüstri Merkezi Yayınları, 1998
003. Typical Commercial Buildings of the Ottoman Classical Period and the Ottoman Construction System, Mustafa Cezar, Türkiye İş Bankası Cultural Publications, 1983
004. Mimarlık ve Yapı Sözlüğü, Doğan Hasol, Yapı-Endüstri Merkezi Yayınları, 2003
005. Türk Çarşıları, Gündüz Özdeş, Tepe Yayınları, 1998
006. Türkiye'de Vakıf Abideler ve Eski Eserler I, Vakıflar Genel Müdürlüğü Yayınları, 1983
007. Türkiye'de Vakıf Abideler ve Eski Eserler II, Vakıflar Genel Müdürlüğü Yayınları, 1977
008. Türkiye'de Vakıf Abideler ve Eski Eserler III, Vakıflar Genel Müdürlüğü Yayınları, 1983
009. Rehber Safranbolu, Gökhan Gönenç, Safranbolu Belediyesi, 2005
010. Dünyü ve Bugünü ile Safranbolu, Ünsal Tunçözgür, 1999
011. 19.Yüzyıl Sonunda Anadolu Kenti Mekânsal Yapı Çözümlemesi, Sevgi Aktüre, O.D.T.Ü. Mimarlık Fakültesi Baskı Atölyesi, 1978
012. Bir Kent Tarihi Kastamonu, Kemal Kutgün Eyüpgiller, Eren, 1999
013. Atatürk'ün Doğumunun 100.yılına Armağan Kütahya, Kütahya İli 100.yıl Kutlama Komitesi, 1982
014. Bursa Osmangazi Belediyesi Tarihi ve Kültürel

- Miras Çalışmaları Çarşı Bölgesi, Osmangazi Belediyesi, 2007
015. Bursa Anıtlar Ansiklopedisi, Raif Kaplanoglu, Yenigün Yayınları, 1994
016. トルコ・イスラーム都市の空間文化, 浅見泰司編, 山川出版社, 2003
017. ロンリープラネットの自由旅行ガイド トルコ, メディアファクトリー, 2004
018. 世界歴史の旅 トルコ, 大村幸弘, 山川出版社, 2000
019. 「トルコにおける商業地域の空間的特質—他のイスラーム地域の都市との比較から—」, 鶴田佳子・陣内秀信, 都市計画論文集, No. 37, pp. 901-906, 2002
020. 「トルコにおける市場空間の特性に関する基礎的考察」, 鶴田佳子・高木亜紀子, 昭和女子大学学苑, 第 814 号, pp. 53-74, 2008
021. YerelNet (トルコ各地方についての情報サイト)
<http://www.yerelnet.org.tr/>
<http://www.kenthaber.com/>
022. Kenthaber (トルコの都市情報サイト)
<http://www.kenthaber.com/>
023. ギョイヌック市公式サイト
<http://www.bolugoyunuk.bel.tr/>, 2008/11/18
024. ムドゥルヌ市公式サイト
<http://www.mudurnu.bel.tr/>, 2008/11/18
025. ボル市公式サイト
<http://www.bolu.bel.tr/>, 2008/11/18
026. サフランボル市公式サイト
<http://www.safranbolu-bld.gov.tr/>, 2008/11/18
027. カスタモヌ市公式サイト
<http://www.kastamonu.bel.tr/>, 2008/11/18
028. カスタモヌ県公式サイト
<http://www.kastamonu.gov.tr/>, 2008/11/18
029. ナルハン市公式サイト
<http://www.nallihan.bel.tr/>, 2008/11/18
030. ベイパザル市公式サイト
<http://www.beypazari-bld.gov.tr/>, 2008/11/18
031. コンヤ市公式サイト
<http://www.konya.bel.tr/>, 2008/11/18
032. アフヨン市公式サイト
<http://www.afyon-bld.gov.tr/tr/>, 2008/11/18
033. キュタフヤ市公式サイト
<http://www.kutahya.bel.tr/>, 2008/11/18

謝辞

本研究は, 平成 19~21 年度科学研究費補助金, 基盤研究(C)「トルコにおける都市構造と市場空間の活用に関する研究」(研究代表者: 鶴田佳子) の助成を受けて, 研究の一環として行われたものである。また, トルコ各地での調査において, 行政機関及び現地の方々に多大なご協力を頂きました。ここに記して謝意を表します。

(つるた よしこ 現代教養学科)

(たかぎ あきこ 生活環境学科)